

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南丹高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	第3学年 総合的な学習の時間 スポーツ・健康分野研究生徒26名
3 展開の形式	学校における活動 3年生の総合的な学習の時間において、課題研究として地域の小学校に行き、児童にスポーツや競技を教える。 その指導について、生徒自らが目標と手順の検討、教授方法、説明方法等について研究する。
4 目標 (ねらい)	○地域の人々と共にスポーツに親しみ、生徒及び小学生のスポーツとオリンピック・パラリンピックに対する興味、関心を高める。 ○生徒がスポーツ、競技について教える方法を考え、実践することでスポーツの意義、楽しさ、トレーニングの意味を再認識する。 ○生徒が小学生に自分が研究をしたこと、自らが考えることを伝える工夫と努力をすることで、コミュニケーション力を高める。
5 取組内容	6～7月 課題研究のグループで、スポーツを通しての地元への貢献として、何が出来るか。どのようにすれば出来るかを話し合った。付箋をつかって意見を出し、まとめて文章化した。 討議と検討の中で、地域の小学生への陸上競技の指導に決まり、小学生への指導計画の立案と指導案の作成を行った。 8月 具体的な指導方法について検討し、指導案を作成。高校のグラウンドで高校生同士で指導者と児童の役を決めて模擬授業を行い、指導案を練り上げていった。 9月12日 亀岡市立亀岡川東学園（義務教育学校）に行き、小学生に陸上競技大会の種目、ソフトボール投げ、走り幅跳び等について教える。
	 <p>小学生に幅跳びの助走、踏切、着地等についての指導する高校生</p>

9月19日

前回の授業の反省点を踏まえ、計画を改善して指導案をつくり、その指導案の内容を事前に自分達で実際に確かめる。



南丹高校のグラウンドで、小学生への指導方法を研究

9月26日

亀岡市立千代川小学校と亀岡川東学園(義務教育学校)の2校に分かれて小学生に指導を行った。

10月3日

亀岡市立千代川小学校と亀岡川東学園の小学生に、高校生が陸上競技大会の種目、ソフトボール投げ、走り幅跳びについて教える。



小学校に行き、陸上競技について指導する高校生

10月17日

EF(Education First 英語教育企業)の英語講師によるパラリンピックについての講演とワークショップを実施。講演およびワークショップは、すべて英語で進行した。



オリンピック・パラリンピックについての英語で説明を受ける



ワークショップ もし(what if)目が見えなかったら 競技を考え、発表する

	<p>10月～11月 今までの内容(小学生への指導、パラリンピック講演)を小グループ4つで分担して、資料をまとめ、発表に向けての準備をする。それぞれのグループ別に発表し、互いに発表を聞いて批評し、発表内容、方法を改善していく。</p> <p>12月12日 3年生の課題研究の分野別発表会</p> <p>平成31年1月16日 学年発表会 3年生全体に対して、液晶プロジェクターで小学校での活動、動きを示しながら課題研究の取組の成果を発表する。</p> <p>1月23日 発表内容の改善 記録してあった小学生の指導によるフォーム変化、動きの映像をプロジェクターで映して、複数の生徒で確認して、意見を交わして効果的な発表方法、内容を考える。</p> <p>2月23日 総合学科発表会 全校生徒及び招待者を対象に課題研究のポスター展示と小学生への指導の様子、フォームの変化の動画をプロジェクターで展示・発表を行う。</p>
6主な成果	<p>○教えられる立場から教える立場となることによって、スポーツについて、その意義、目的を考え、一つ一つの練習や行動の意味を知り、スポーツの奥深さと楽しみを再認識した。</p> <p>○自分の意志と知識を伝えることで、自身の理解を深めるとともに、伝達の難しさ喜びを知り、コミュニケーション力を高めた。</p> <p>○パラリンピックの価値、Courage Determination Inspiration Equalityについて理解し、自分の言葉で説明できるようになった。</p> <p>○映像で指導の過程、フォームや動きの変化を客観的に、多数の目で見ることによって、スポーツを以前より、理論的、科学的に考える習慣と見方が身についた。</p> <p>○指導した小学生たちの幅跳びや高跳びの記録が伸びた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○課題研究として何をどのように取り組むかという点から、生徒達で考え、自主的に決定、行動できるように進めた。</p> <p>○画像や映像を使って、指導の方法、過程、フォーム等を記録し、生徒が客観的に考え、説明時にも見せられるようにした。</p> <p>○小学生を対象とするため、安全管理、危険性や怪我への注意、適切な説明の内容と方法について考えさせた。</p> <p>○オリンピック、パラリンピックについて、価値について受身の学習でなく、自分の考えを持って、話せるように指導した。</p>
8主な課題等	<p>○小学校という校種が異なる対象のため、相手先との時期や時間の調整が難しく、回数を当初予定していたほどは多く取れなかった。</p> <p>○生徒達で話し合わせて、自分達で決めた内容に取り組む形にしたため、年度当初からの他校への問合せや準備、校内での他の教員等への周知等に課題が残った。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○本校は生徒による探究活動を重視しており、また、総合学科のスポーツ健康系列でスポーツを中心に学ぶ生徒が一定数いることから、スポーツ及びオリンピックへの関心を高める事業の重要性が大きく、オリンピック・パラリンピック教育推進事業を継続して実施を希望する。</p>

